

令和8年度 第1回 精華町高齢者保健福祉審議会

日時：令和8年6月25日（木）15：00～16：30

場所：精華町役場 審議会室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 委員紹介

- ・3人の委員変更の連絡と紹介及び事務局の自己紹介

4. 会長挨拶

5. 会議成立の報告

- ・委員総数19名中16名の出席により、審議会が成立することについて事務局より報告

6. 議 事

（1）精華町高齢者等実態調査結果の報告について

- ・事務局より、資料1「高齢者を取り巻く現状と将来見込み」、資料2「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果からみる課題」、資料3「在宅介護実態調査結果からみる課題」の説明

（質疑応答）

北崎委員：質問が多くある。1点目、資料1の人口動態予測について、現状45.1%まで上がるであろうという予測となっている。現行の人口分布ベースに推計する場合、出生率や人口移動、町内にどれだけの人が移動してくるかといった要素で結果が変わってくると思うが、どのような認識で45.1%や2万7000人になるだろうと前提条件や考え方に基づいて予測されたのか伺いたい。行政でも人口減少に対してどう歯止めをかけるか様々な政策があるが、この辺りも今後の見込みに影響してくる。また、今後の福祉計画を検討する上でも非常に重要な要素になると思う。資料1の年齢別人口・人口推計、動態予測については何をベースに予測したのか伺いたい。特に住宅開発はピークアウトしている状況で、今後、本当にこれだけの人口減が生じるのか。現状から1万人ほど減少するという見込みは驚異的である。先日、国が発表した人口動態結果をみると、木津川市や京田辺市は人口が若干増という状況の中、精華町だけが4,000人ほど下がっていると発表もあったが、この辺りは人口はどうなるか、行政側の見込みとも関連するため、基本的な認識としてどのように予測しているか教えていただきたい。

事務局：この人口構成については住民基本台帳人口に基づいて、コーホート変化率法で推計している。コーホート変化率法というのは、この年に出生した集団の過去における実績人口の変化率に基づき将来人口を推計する方法であり、一般的な人口推計の方法だと認識している。なお、この資料1では、高齢化率が非常に伸びているとされているが、2028年

より先は毎年の数値ではなく、数年（2年・5年）置きの数字になっていることはご認識いただきたい。

北崎委員：どのような母集団を対象にしているのか、最初に認識しておかなければならないと思う。65歳以上の方だと精華町には1万人近くいる、その中から無作為抽出したと思うが、圏域別にみると、北部・中部・南部が均等な回答となっている。これは実際の人口分布とは異なっているのではないかと思うが、なぜこのような均等な回答になっているのか疑問に思った。完全なランダムサンプリングなのか。

事務局：完全ランダムで1,000人と2,000人を無作為抽出している。

北崎委員：北部と南部と中部がうまく3割ずつの回答になったということか。

事務局：単純に3で割って、北部・中部・南部と均等にしている。

北崎委員：回答者の人口に対する密度は同じという解釈でよいのか。どの圏域をとっても、母集団に対して回答者の割合は大体同じであると捉えてよいのか。なぜこのようなことを聞くかという、地域によって北部と南部・中部では意識の部分にかなり違いが出てくるのではないかと思っているからである。例えば、我々が住んでいる光台では高齢化も進行しているが、亡くなる方も多く、新たに若い人がどんどんと入ってきている状況である。一方で、北部をみると、入れ替わりがなかなか進んでおらず、空き家になっているという状況である。このように、北部と中南部では、1人暮らしの問題など状況的に違いがあるように思い、事前に予測した上で結果を見ようとしていた。そのため、母集団に対してどのような割合で回答が得られているのか教えてもらいたい。

事務局：参考資料1の4ページに回答者の比率が出ており、これでは北部が約4割と高い比率となっている。必ずしも均等に3割ずつとなっているわけではない。

北崎委員：私が調べた圏域別の人数と割合が少し違うので疑問に思った。このような割合になるのではなく、もっと中部や南部の割合が増えるのではないかと思った。

郭会長：今の北崎委員のご質問は、南部・北部・中部それぞれの高齢化率の質問である。今回の調査、回答者の割合ではなく、各地域の高齢化率がいくつになっているのか、教えていただきたい。

事務局：この件に関しては一度持ち帰り、議事録を送る際、もしくは次回の審議会の場で何らかの説明をさせていただく。

北崎委員：資料2では参考資料1の調査結果がベースとなっていると思うが、私は前回調査（令和6年）との比較に興味があった。住民の意識や実態の中にどういった変化が生じているかという視点でみると、概ね前回調査と傾向は変わらなかった。総合的には、いろん

部分で増えたり減ったりはしているが、その要因はどこの地域も高齢化率が進み、後期高齢者の人口増加が背景にあるのではないかと考えている。住民の意識の構造としては私が期待した部分を裏切るような回答が多かった。何かというと、住民が社会活動については消極的になっていっており、健康への取り組みは積極的ではないという傾向がみられたため、その辺りは注意して調査結果を見る必要があるのではないかと感じた。例えば、私たちがやっている「すてき 65」の活動人数も減っている。我々が力を入れているにしては非常に減少しているなど思い気になった。これは、今の住民の意識において、何か重要な問題を提起しているのではないかと考えた。この結果をもう少し深く見ていく必要があり、全体の結果を見てこのような不安感を覚えたという意見であった。

錦織委員：資料 2 の 7 ページ（5）社会参加についてのアンケート結果分析のところであるが、地域づくり活動の参加意向で「参加してもよい」という方は 56.1%となっており、実際の参加状況をみると、介護予防のための通いの場合は 4.9%となっている。実際に参加している人がかなり低い数字にとどまっている。これについては何か原因について分析はしているのか。「誰もが参加しやすい取り組みを進めていく必要がある」という結論になっているが、例えば「介護予防」という名前に抵抗があって参加していないのか、移動手段がないからなのか、なぜ外出しないのかという点においてもアンケートを取られていたので、参加してもよいという人が半数以上いるなかで、実際に参加している人が 5%弱ということについては何らかの分析が必要だと思う。その分析の上で対策を立てないとういうサービスを提供したらいいかミスマッチがおこると思うので、もし原因分析されているのなら伺いたい。

事務局：現状、詳細な分析はできていない。できる範囲で調べることは続けていきたい。

事務局：退職年齢が上がっているというのも一つの大きな要因だと思う。ただ、健康寿命も伸びているので、例えばフルタイムでなくなったタイミングで地域活動を行うなどでもできるかもしれない。情報が行き届いていない可能性もあると思うので、保険の切り替え等のタイミングで行政が案内するなど、仕事年齢が延びている方も含めて地域活動に参加していただく案内が行き届く仕組みや仕組みを作れるのではないかと考えている。地域に社会参加していただくことに関しては、高齢部門だけではなく、関連部門と連携しながら仕組み化するというのも一つではないかと思う。

岡田委員：データを見て感じたことだが、資料 1 をみると、2045 年には高齢化率が 45.1%となっており、前回の 43.7%より推計値が上がっている。しかし、なぜこんなにも推計値が上がっているのか見てみると、特に、0 歳から 39 歳の層の減少傾向が非常に大きい。資料 2 に掲載の 1 人暮らし高齢者や、高齢者のみ世帯が 63%程度になってくるが、高齢者は介護が必要である。若い層が減って、高齢者が増えた時に介護の担い手問題はかなり深刻になる。家族の介護力も減り、介護サービスを提供する人も少なくなってくる。高齢者保健福祉計画だけではないことかもしれないが、介護の担い手の確保についても、計画に盛り込む必要があると切に感じた。

郭会長：担い手をいかに増やしていくか、今回の計画の中にどのように反映しているかというご意見であった。

田中委員：今回お示しいただいた様々なデータに加え、従前の調査結果や、近隣市町村との比較等から、高齢者保健福祉分野における精華町の特徴が明らかになると思う。今後も高齢化率は上昇し、いわゆる「2040 問題」が精華町のみならず全国共通の当面する大きな課題である。その中で精華町にはどのような特徴があるのか。例えば、今後の人口動態の傾向やそれに伴う課題については、全国や京都府内、近隣市町村、同規模の市町村等々と比較・分析することで明確になると考える。また、精華町内においても、地域ごとの課題、特に、古い地域と新興住宅地との違いを分析することで実態が分かってくるだろう。加えて、資料 2、3 に共通して言えることだが、介護サービスと介護外サービス、住民に対する PR の過不足の状況を分析していくことが非常に大事。次回の審議会でお示しいただく資料や分析結果から議論できればと思う。

事務局：国の動向につきましては、資料を提供していく。

郭会長：サービス利用の不足について次回、事業所調査の結果報告もあるという認識でよいか。

事務局：ご認識の通りである。次回に事業所調査と団体調査の結果を報告する。

北崎委員：総合事業対象者は非常に少ないが、町として対象者への積極的な案内や働きかけは行っているのか。地域の中でサポートを受けた方がよいと思われる総合事業対象者の方がもっと多くいるのではないかなと思うが、この調査結果をみると、総合事業対象者は 1,000 人中 10 人程度となっている。これは、町として認定した方が少なかったのか、それとも回答者自身が総合事業対象者であるという認識が十分でなかったため、このような結果になったのか。

事務局：現在、総合事業対象者の数は持ち合わせていないため分かりかねるが、回答数は 10 人であったというところである。

北崎委員：町として、要支援・介護に至る前に積極的に介護予防を促すのが一番大事だと思う。総合事業対象者の認定を積極的に行い、健康度を上げ、戻してもらい取り組みが重要であると思う。その辺りはどうされているのか。

事務局：地域のサロン等、保健師が行く際に総合事業のチェックシートを活用して聞き取りをしているので、引き続き、そのような場でも早期発見・啓発に繋げていく。

北崎委員：プレレイル予防教室に来ている方は、足の弱い方が杖をついて来られることもあった。そういった方々は年に 3、4 回程度の運動だけではもったいない気がした。このような場に参加する気持ちがあるのであれば、もっと専門的な活動も促していけば、大変な事態には至らなくて済むケースも出てくるのではないかなと思っている。総合事業をせっかく取り組んでいるので、そこに住民を誘導するような取り組みも重要だと思った。

郭会長：ニーズ調査に関する質問が多く出たが、在宅介護実態調査についてはいかがか。

錦織委員：資料３の４ページ、仕事と介護の両立に向けた支援サービスの提供体制という部分で、ほぼ毎日介護している人がフルタイムでも約５割だが、介護保険サービスを利用していない人が３０．２％となっている。必要な人が必要な時にサービスを利用できる環境づくりが必要だということだが、これも先ほどの啓発同様、なぜサービスを利用しないのか原因分析が必要ではないか。結局、サービスがあると分かっているけど受けたくないとか、サービスがあることは知っているが拒絶するケースもある。啓発だけではなかなか難しいのではないかな。その分析も必要と思うが、いかがかな。

事務局：これは、国が出している共通の設問であり、「なぜか」という分岐設問がないものでそこから先を追及できない。

郭会長：例えば、このサービスを利用できていない３０％の人に絞ってインタビューをするまたは追加調査する可能性はあるかな。あるいは、サービスを利用できていない人への追加調査を今までできていたかな。

事務局：現状ではその予定はない。

北崎委員：在宅介護実態調査で在宅介護を希望する人たちが増えてきているというのはこれでわかるが、訪問診療利用の調査結果をみると、利用している方が２割程度となっている。今後、利用者が増えていくので、どう受け皿を作っていくかが課題だと思う。精華町の訪問利用者は２割だが、全国はどうか厚労省のデータを調べてみたが、全国のデータが分からなかった。精華町の訪問診療の利用が２割程度というのは全国的にほぼ平均的なのかな教えてほしい。今後、訪問診療は増えていくことが予想されるので、歯科医も含め、訪問診療のシステムをどのように作っていくかが大きな課題だと思う。

事務局：精華町の中で医師の数は一般的に少ないと言われている。この訪問診療の利用が約２割という点においては何とも言えないが、介護保険で在宅で受けるサービス全般については、十分かどうかの議論の余地はあるかなと思う。現段階で個々のサービスが若干不足しているという意見もいただいているが、大きく全体をみると、概ね充足しており、希望されているサービスは提供できているのではないかと考えている。

（２）今後の計画策定スケジュールについて

- ・事務局より、資料４「精華町第１１次高齢者保健福祉計画及び精華町第１０期介護保険事業計画策定スケジュールについて（予定）」の説明

（質疑応答）

郭 会 長：事務局の報告に対し、質問等はあるか。

田中委員：計画策定にあたってデータ及びその分析を重視することはもちろん、データだけでは見えてこない地域の現状や課題も多くあると思う。そのためにも、昨年度から始まった「地域ケア会議」において明らかになった地域課題について議論を深めていく必要があると思う。今後の超高齢社会において、介護保険が全てをカバーできれば良いが、それだけでは「2040 問題」を解決することは難しい。介護保険サービスももちろん充実していけないといけないが、一方で住民主体のボランティア活動や様々な地域の取り組み、地域の人との繋がりの中で生まれる「助け合い」というサービスについても、客観的なデータやニーズ、住民の声から、現状と課題を明確にし、計画策定に反映させるべきと認識している。

郭 会 長：本日の議事である調査の説明と報告、スケジュールが終わったが、全体を踏まえ質問や意見はあるか。

北崎委員：先週この調査結果をいただいたが、できればもう少し早くいただきたい。早くいただければ、事前に資料を読み込む時間も増え、ここでの議論が非常に中身の濃いものになると思う。

郭 会 長：簡単に本日の議事をまとめる。１つ目、ニーズ調査と在宅介護実態調査の現状説明をいただいた。全国の中で精華町の位置付け、精華町の特徴がそれぞれの項目に対してどうなっているのか。また、今までの計画との比較をすることで計画策定の方向性や傾向が見えてくるのではないかという意見があった。２つ目、「参加してもよい」という人数は増えているが、実際の参加率が低い。あるいは、「困っている」という人はいるが、サービスの利用には繋がっていない。その辺りの原因分析を行うという意見があった。次回は事業所調査と団体調査の結果が出てくると思うが、そこでは保険内・外のサービスについて足りているのか見えてくるかと思う。そして、介護の担い手の話も出てくるのではないかと思うという意見があった。事務局はこれら意見を踏まえて準備を進めていただきたい。以上で本日の議題は全て終了とする。ご協力ありがとうございました。

事 務 局：郭会長、議事進行ありがとうございました。また、委員の皆様長時間にわたり貴重なご意見ありがとうございました。次回の会議は、８月２６日水曜日、午後１時３０分から、場所は同じく審議会室を予定している。案内は１か月前を目途に送付し、参加の出欠について改めて連絡をする。資料についても後日送付させていただく。これにて閉会させていただきます。